

量子コンピュータ関連 人気高揚

物色のすそ野広がる

シグマ光機などに注目



NF回路設計ブロック(6864・JQ)、日本ラッド(4736・JQ)、YKT(2693・JQ)など、「量子コンピュータ」関連株の人氣が止まらない。

NF回路は超低雑音増幅器が量子コンピュータの超電導デバイス信号増幅に用いられること、日本ラッドは産業用コンビ

ユーター分野で世界トップシェアのアドバンテック(台湾)と協業関係にあることが手掛かり。YKTは、量子コンピュータ関連機器も扱う100%子会社の存在を手掛かりに4日連続ストップ高に弾んだ。

衆院選挙を控え、値動きの軽い材料株指向が強まる中、電池関連(EV部材)に並ぶ材料株として一本立ちしてきた量子コンピュータ関連物色のうねりが増しつつあり、物色の輪も拡大傾向にある。26日までは(なま)相場だった

富士通BSC(4793・JQ)も、兄弟会社とトロント大学(カナダ)との量子コンピュータの開発拠点設立発表を蒸し返し、27日は一時ストップ高(27%高)の急伸を演じた。

【光関連もマーク】
中で、量子コンピュータ関連になる可能性がありながら、現状ではそうした評価がまったくなさくないセクターに「光関連」がある。

9月22日、東京大学の古澤明教授、武田俊太郎助教授らは、汎用量子コンピュータの実現につながる「光子量子コンピュータ方式」を発表した。動きの速い光を使って計算処理するもので、光素子、光ファイバーのほか、レーザーや光パルスを使ったミラーやレンズ、ホル

ターといった光学系機器が活躍するとみられている(実際、この原理発明前、古澤教授らが製作した量子コンピュータには、量4枚分の面積に500枚以上のレンズやミラーが使用されていた)。

コンピュータ機器として実用化するには主要部分のチップ化が必須とみられるものの、一足飛びにはいかず、試作開発段階や周辺領域で光関連機器の需要増加が読まれるところ。santec(6777・JQ)、岡本硝子(7746・JQ)、精工技研(6834・JQ)など光関連への思惑波及が期待される。

中で注目されるのがシグマ光機(7713・JQ)だ。光の反射率が高く測定精度の高い「平坦度の高いレンズやミラー」の製作で実績豊富。同社は日本でレーザー研究が始まった約40年前、理化学研究所や東大などのレーザー研究に必要で、レーザー研究に必要な製品需要に応えるために創設され、今なお最先端の研究領域においても活躍している。また、世界で初めて重力波の観測に成功したアメリカの天文台「LIGO」にも同社製品が使用されているもよう。同天文台の創始者はノーベル物理学賞受賞の有力候補とされ、材料でんこ盛り。

中では、量子コンピュータ関連になる可能性がありながら、現状ではそうした評価がまったくなさくないセクターに「光関連」がある。

9月22日、東京大学の古澤明教授、武田俊太郎助教授らは、汎用量子コンピュータの実現につながる「光子量子コンピュータ方式」を発表した。動きの速い光を使って計算処理するもので、光素子、光ファイバーのほか、レーザーや光パルスを使ったミラーやレンズ、ホル

中で注目されるのがシグマ光機(7713・JQ)だ。光の反射率が高く測定精度の高い「平坦度の高いレンズやミラー」の製作で実績豊富。同社は日本でレーザー研究が始まった約40年前、理化学研究所や東大などのレーザー研究に必要で、レーザー研究に必要な製品需要に応えるために創設され、今なお最先端の研究領域においても活躍している。また、世界で初めて重力波の観測に成功したアメリカの天文台「LIGO」にも同社製品が使用されているもよう。同天文台の創始者はノーベル物理学賞受賞の有力候補とされ、材料でんこ盛り。

中で注目されるのがシグマ光機(7713・JQ)だ。光の反射率が高く測定精度の高い「平坦度の高いレンズやミラー」の製作で実績豊富。同社は日本でレーザー研究が始まった約40年前、理化学研究所や東大などのレーザー研究に必要で、レーザー研究に必要な製品需要に応えるために創設され、今なお最先端の研究領域においても活躍している。また、世界で初めて重力波の観測に成功したアメリカの天文台「LIGO」にも同社製品が使用されているもよう。同天文台の創始者はノーベル物理学賞受賞の有力候補とされ、材料でんこ盛り。